

「阿賀町近代化遺産の光と影を通じたESD-SDGs」小・中学校向け教材化プロジェクト

文部科学省ユネスコ活動費補助金

コンソーシアム

阿賀町役場鹿瀬支所
阿賀町教育委員会
〔一社〕あがのがわ環境学舎
日本自然環境専門学校
昭和電工株式会社

の教材制作



昭和期

高度経済成長
(四大公害)



鹿瀬工場

大正期

水力発電
(自然への影響)



鹿瀬ダム

明治期

鉱山開発
(鉱害)



草倉銅山

阿賀野川流域の近代産業を教材に

「阿賀野川えとこだより」でもたびたび取り上げてきた、草倉銅山や鹿瀬ダム、旧昭和電工(株)鹿瀬工場などといった阿賀野川流域の近代化遺産。この光と影の変遷の歴史から得られる様々な誇りや教訓を流域の次世代に伝えていくため、小・中学校向けの教材を制作する合同プロジェクトが、このたび文部科学省の「平成30年度ユネスコ活動費補助金」に採択されました。

多様な主体が協働して制作

このプロジェクトには、阿賀町及びF.M.事業を新潟県から受託する一般社団法人あがのがわ環境学舎が参画するだけでなく、阿賀町教育委員会を始めとした阿賀町内の小・中学校や昭和電工(株)なども協働して、教材制作が展開されていきます。

最終的には、こうした教材制作やその後の活用を通じて、阿賀野川流域独自の地域版ESD・SDGsの確立を目指しています。

イーエスディー

ESD って何?

エスディー・ジーズ

SDGs って何?

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



プロジェクト名にもあるESDやSDGsといった英文字の用語。ESDは環境教育の用語で、SDGsは近年世界的に流行している社会が達成すべき目標のこと。以下で解説します。

ESD Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)の略。環境学習だけでなく、人権教育、地域の歴史・文化学習など、環境・経済・社会の多様な側面を総合的に学ぶ教育のこと。

SDGs Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略。国連サミットで採択された2030年までの国際目標で、17の目標・169のターゲットからなる。日本も参画し、大企業も積極的に取り入れている。

現在、エディブルをトッピングした米粉クッキーの販売や、廃校舎を活用した植物工場の稼働など新たな試みが続く中、さらなる次の展開を案じつつに語る脇坂さん。

「やっぱり自分がワクワクしていないと、相手に伝わらない。この熱量が伝わったから、エディブルフラワーを手にとっていただけたのだと思う」

また、通常は夏季に出荷されないエディブルですが、(株)脇坂園芸ではなんと通年出荷も実現しています。

シェフに届けるエディブルの花束

その後、脇坂さんは様々な商談会に出展、フェイスブックの情報発信に注力するなど、自社製品の販路形成に尽力します。やがて、関西や東京の飲食店から注文が入り始めました。「既存のエディブルは1パックに1種類の花しか入っていない。でも私たちは色とりどりの花を1パックに詰めしてお届けします。使っていたくシエフに感動してもらいたくて…」

こうして取引先が増えた現在、阿賀野市や大都市圏のみならず、新潟市内など県内の飲食店でも使われ始め、結婚式場やインスタ映え「需要など販路は拡大しています」。



Edible Garden Soel(ソエル)
住所: 阿賀野市境新128
営業: 金・土・日 11時~15時
電話: 0250-62-6772



▲エディブルフラワーをトッピングした米粉クッキーは大人気で、加工品の主力商品に。直売所ソエルで購入できる。



▲「インスタ映え」するソフトクリーム(グリコ)



▲押し寿司(春よし・阿賀野市)



▶生春巻き



▲サラダ

料理例のご紹介



▲清流「阿賀野川」が流れ、「五頭連峰」を背に田園風景が広がる自然豊かな環境の中にある、(株)脇坂園芸のエディブルフラワー栽培場。写真は作業中の脇坂さんご夫妻。

阿賀の宝もん★発掘レポート

阿賀野川の歴史や文化、人や暮らし、自然環境…などを流域の未来に生かす取組を、毎号掲載。



阿賀野市のエディブルフラワー
by (株)脇坂園芸

vol.2

エディブルフラワーって何?

エディブルフラワーとは、食べられるお花、「食用花」のこと。私たち日本人には食用菊が馴染み深いですが、近年では色とりどりのお花が食用花として供されています。

全国的にまだ栽培農家が少なく中、その生産で急成長する団体が新潟県内にあります。それが阿賀野市にある(株)脇坂園芸です。

農業の6次産業化の一環として

(株)脇坂園芸の代表取締役・脇坂裕一さんは、30年以上前から鉢花や花苗の生産を続ける個人農家でした。「ただ、こうした花の栽培は、いずれ市場が縮小するかもしれない」との危機感を以前から抱いていた脇坂さんは、農地の活用にも挑戦し始め、その情熱は行政をも動かします。そして、阿賀野市の勤めもあつて「6次産業化法の総合事業計画(※下記右欄参照)に応募申請したことが、一大転換の契機となりました。」



▲農地を活用した加工・直売施設「ソエル」

当時、足しげく通う阿賀野市の職員と何度も話し合ったのが、経営の

平成25年5月、脇坂園芸は株式会社に法人化、総合事業計画も見事認定されたことで、エディブルの本格的な生産・販売が開始されます。

その際、すでに市場に出回る他社のエディブルとの差別化を図るため、脇坂さんは多大な努力と時間がかかるブランド化に乗り出しました。

「それが無農薬栽培です。安心してエディブルフラワーを食していただきたい。そのため、多くの手間暇をかけて衛生的な栽培を徹底しています」

ブランド化に向けた壮絶な努力



▲水やりをする脇坂さん

柱となる農産品についてでした。「田んぼもやっているから、米粉も考えたんだけど、差別化が難しくて…」そんな折、脇坂さんが担当職員にエディブルフラワーを提案したところ、「聞いたこともない商品だ」とがぜん興味を示してくれました。「わざわざネットで検索して調べてくれてね。でもほとんど情報が出てこないから、逆に伸び代がある…」その後、市場調査も独自に行い、食用花が6次産業化の柱に決まります。

エディブルフラワーの栽培



3 バック詰め・出荷



2 育成・水やり・手摘み



1 土詰め・種まき・植替え

6次産業化とは?



農林漁業の6次産業化とは、1次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業等を組み合わせ(1次+2次+3次=6次)、新たな付加価値を生み出す取組のこと。平成22年には6次産業化法が制定され、総合事業計画が認定された事業者に支援が行われる仕組みもできた。

※4~5ページの「(株)脇坂園芸のエディブルフラワー」を紹介するコーナーに掲載された写真は、「ソエル」を撮影した写真を除き、すべて木村正見氏撮影写真など(株)脇坂園芸から提供されたもの

